

令和3年度事業計画について

I. 事業計画

令和3年度の事業では、実施事業(公益事業)として、「河川利用・管理・調査研究支援に関する活動」、「河川利用推進支援に関する活動」、「防災・危機管理支援に関する活動」の3事業について行います。

また、収益事業(その他事業)では河川の公物管理支援事業、並びに河川コンサルタント業務等を行います。

I—1 実施事業 資料—1

(1)河川利用・管理・調査研究支援に関する活動

《技術蓄積・研究等》

■筑後川市民大学

「筑後川市民大学」は、一般市民の筑後川に対する関心を高めることを目的として、①誰でもいつでも筑後川流域の情報が手に入れることができること、②筑後川で活動する新しい人材を育てること、③市民の皆様に筑後川の魅力を伝え、誰でも筑後川を楽しめる筑後川づくりへの参加環境をつくりだすことに取り組んでいます。

今年度は、誰でもいつでも筑後川流域のその情報を入手する事ができるようホームページや情報誌等で発信できるように努めていきます。

■河川維持管理講習会

気候変動の影響で近年、雨の降り方が局地化・集中化していることから防災・減災において、日頃からの河川維持管理の重要性が高まっています。また、高度経済成長期に作られた多くの構造物が老朽化し、今後、耐用年数を迎える事になります。このような状況において、河川管理の担い手となる技術者を育成する役割は大きく、その技術力の向上を図ることを目的として河川維持管理技術講習会を開催しています。

今年度も、河川管理業務に携わる技術者を対象に講習会を開催します。

■筑後川水共同域の活動基本情報検討

筑後川水共同域(筑後川流域、有明海、福岡都市圏)への流域的な支援として、筑後川の治水・利水・環境・自然特性について整理を行い、「川と人」の関わりにおける課題の抽出と解決に向けての検討を行います。

今年度は、学識者の流域活動への参加を目指しその準備を行います。

《管理・調査・研究支援》

■住民目線でのより良い河川管理検討

九州の河川を住民の目線でより良く維持・管理するため、河川技術者の育成と技術力向上に重点をおいた講習会や研究会に取り組んでいます。

研究会では、河川維持管理技術者資格を保有する地場コンサルや行政経験者により、河川管理における課題に対する解決方法の検討や、実践的なアプローチを行っていきます。

【九州河川技術に関する講習会】

九州の河川に携わる技術者の育成を行うことで維持管理に関する質の高い知識を広め、定着させることを目的とした講習会を行います。講習会では基本的な技術から今後必要となる維持管理の在り方、技術者の研鑽方法など多岐にわたり、様々な立場の河川技術者に対しても、有益となる講習会を目指します。

今年度も現場で被災リスクを見抜くための技術に関する講習会を実施します。

【九州河川維持管理技術研究会】

河川維持管理に関わる人材、予算ともに切迫した状況に対応した効率的な河道管理を目指すため、九州各地で活動する河川維持管理技術者を集め、河川維持管理に関する諸課題に関する議論を重ね河川技術の向上を図ります。

研究会では、ワーキング形式で議論を重ねています。年末には高い見識のあるアドバイザーを招いた研究会を開催します。研究会で得られた成果は、各種業務に反映させ九州全体の河川技術向上を目指します。

今年度も、筑後川上流の花月川(日田市)を対象に平成 24・29年に出水を受けた花月川をフィールドとして、平時において堤防決壊リスク等を見極める研究として河川技術者と学識者の意見交換会を開催します。

■筑後川の起源(成り立ち)研究

筑後川の「成り立ち」を学ぶことにより、今後の筑後川とその流域の暮らしや経済を考え地域の将来を見通すことを目的に、筑後川の古代から現在までの歴史、地誌、文化、産業などを系統的に整理し、地域の「まちづくり」にも活用できる基礎資料の作成を行います。

今年度も、「地質」、「古墳」、「林業」、「産業」、「明治以降の土木

行政」などの分野について、専門家を招いて議論を進めていきます。

■河川市民活動人材育成システム検討

筑後川流域の活性化を図るべく活動している市民団体は多々ありますが、どの団体も構成委員の高齢化及び地域単位の活動となっている傾向が顕著となっており、今後の「流域」としての活動活性化をめざし、筑後川流域の上下流連携を推進するとともに、若い人材(次世代)を 発掘・育成していくことを支援しています。

今年度も、一昨年度に作成した筑後川の情報発信を行うポータルサイトを活用し、より一層流域連携が盛り上がる仕組みを検討し、引き続き「若手による次世代連携」を組織化し、将来の筑後川を担う人材づくりを支援します。

■河川市民団体活動公開講座(次世代)

河川における市民団体等の次世代人材発掘と育成、活動の輪を広げること为目标に、次世代メンバーが集い、次世代の「わ」を繋げ新たな川での活動の可能性を考える活動を支援しています。

今年度は、コロナウィルス禍感染防止のためオンラインで講座を開催し、次世代育成及び、働き盛りの30～40代の連携・組織化の確立などの課題と対応について意見交換を行います。

■九州ミズベリング・親水性の研究会

ミズベリングは、全国の各河川で開催され、河川に多くの市民が集い、参加者自らが川に接し川での利活用を実感する機会として、毎年趣向をこらして実施されています。九州でも、各河川で実施されていることから、活発に実施されている団体による「九州ミズベリング・親水性の研究会」を立ち上げ、ミズベリングがさらに充実したものとなるよう議論を行います。

今年度は、筑後川をモデルに準備会を実施し、構成員候補を募っていきます。

■九州水環境研究会

子供たちにとって、昔のように川で遊ぶ、体験するといった機会が少なくなってきたおり、より身近に親しまれるみんなの川にするため、「九州水環境研究会」を立ち上げ、子供たちへの環境情操教育、自然環境の素晴らしさに気付かせるプログラムとして、「キレイな川づくり発表会」を行います。また、研究会での成果は、読本としてとりまとめ活動団体での参考となるようにします。

今年度は新型コロナウイルス禍の影響もありますが、オンライン会議などを活用し準備会の結成に向け作業を進めていきます。

■インフラツーリズムを活用した地域活性化の可能性検討

九州内においても河川のインフラを活用した「インフラツーリズム」に期待が集まっていることから、過疎化する地域・流域の活性化と流域の担い手の発掘・育成を目的に、「インフラツーリズムを含めた新たな流域ツーリズムのあり方」を提案するインフラツーリズムに関する研究会活動を行います。

今年度は筑後川をモデルに河川を活用したサイクルツーリズムの検討を行います。

■河川利用アンケート調査

筑後川など各流域内に居住する一般住民の河川に対するニーズを把握するため、令和元年度に北部九州4県を対象として「河川空間における河川利活用に対する市民ニーズ」や「今後の河川などに関する住民活動のあり方、あるいは活動への支援ニーズ」についてのWEBアンケート調査分析を行いました。

今年度は、その結果を踏まえ新たな河川利用ニーズを把握することなどについて、調査検討を行います。

(2)河川利用推進支援に関する活動

《美化活動支援》

ノーポイ運動について、河川愛護団体・企業・NPO等とともに美化活動に参加します。また、各地域における河川愛護・美化に関する団体等の活動に対し、資器材などの支援を行います。

《広報活動支援》

■流域市長対談等

住民が流域の課題を理解し、共通の認識を持って取り組むよう筑後川流域の首長対談を実施し、対談内容について筑後川新聞などを活用して広報します。

今年度も筑後川流域の首長及び関係者の対談を実施します。

■流域情報交換会

川に関係する自治体等が集まって、川を生かした地域づくり(地方創生)及びその実現のために今年度も流域の情報交換会を実施します。

■筑後川広域広報活動支援

筑後川とその周辺地域の住民らによる活発な地域づくりに対し、情報の共有化を図ることを目的に、当協会の支援事業等の情報を

提供しています。

今年度も、「筑後川新聞」等を活用して住民団体の優良活動事例や当協会の支援事業等について投稿していきます。

■住民目線による流域情報の発信

河川の特徴豊かな魅力を様々な切り口で紹介し地域に住む人々に河川に対する興味関心を高めることを目的に、住民目線による川の情報誌を編集し、市民、活動団体及び行政等に幅広く発信します。

今年度も引き続き、九州各地の河川で活動する団体の情報を収集し、地域の特色や団体の思いを反映した情報誌(第4号)を発行します。

■河川愛護活動

子どもたちの河川愛護、啓発活動の一環として、未就学児から小学生を対象に「私の川・夢プラン(こんな川にしたい)絵画の募集」を平成30年度より実施しています。今年度も川で活動する団体と連携した募集活動を行うとともに、子どもたちへ河川愛護啓発が伝わるよう全応募作品を掲載した作品集を作成します。

《河川利用推進支援事業》(公募事業・NPO等活動支援)

北部九州の各流域で活動している市民団体やNPO組織に対して、広く公募により呼びかけを行い、河川利用・河川愛護に寄与する事業の円滑実施に向けた支援を行います。

今年度は40団体(継続31、新規9)の応募がありました。

(3)水防災・危機管理に関する活動

《水防災・危機管理支援》

高齢化社会に向けて自助を助ける共助の取り組み支援として、「水防災意識社会の再構築」活動への支援として共助の担い手となる活動への支援や災害で被災した地域への復興支援を行います。

■花月川流域水防災活動支援

平成24年(2回)、平成29年に被災を受けた日田市花月川流域における「自助・共助」の意識を高め、住民自らの早めの避難行動に繋がることを目指し、花月川流域での流域水防災活動への支援を行います。今年度においても、花月川流域での水防災活動支援として、防災かわら版などの活動への支援を行います。

■九州豪雨復興活動支援

平常時における水防災意識の再構築に向けての啓発活動や避難対策に向けての河川で活動する団体による共助活動を充実させることを目的に、甚大な被害を受けた流域への復旧支援活動を行っていきます。

今年度は、被災流域の復旧支援活動と新たなテーマである流域治水や水防災意識の再構築に向けて住民団体研修会の活動を支援していきます。

■水防災を考える活動支援

近年の大規模な豪雨災害の発生により、「自助・共助」の意識を高め早めの避難行動に備えるなどの水防災意識の構築への関心は高く、関係者における水防災活動に役立つものとなるための情報共有を行います。

今年度は、水防災活動の先行事例等を紹介する「防災セミナー」を地域と連携して行います。

I—2 収益事業

(1) 公物管理業務

河川管理の一環として河川巡視、堤防点検、堰等管理支援、許認可等、公物管理支援業務及び行政支援業務を受注し、適切な河川管理に貢献していきます。

筑後川・矢部川水系河川巡視支援業務(R3年度)

嘉瀬川河川巡視支援業務(R3、R4年度)

佐賀導水路河川巡視支援業務(R3年度)

筑後川・矢部川堰管理支援業務(R3年度)

嘉瀬川大堰管理支援業務(R3、R4年度)

筑後川・矢部川水系河川許認可審査支援業務(R3年度)

武雄河川事務所管内許認可審査支援業務(R3年度)

六角川水系河川巡視等支援業務(R2、R3年度)・・・JV

松浦川水系河川巡視等支援業務(R2、R3年度)・・・JV

菊池川水系河川許認可審査支援業務(R3年度)

について、引き続き実施します。

(2) コンサルタント業務等

北部九州4県の河川で、河川管理及び地域活力の発展に寄与するためのコンサルティング等の業務を実施します。

また、河川協力団体等の連携強化を図るための情報交換等の事業を行います。

I—3 その他

(1) 職員研修の充実

職員の公共モラルの意識向上、技術力のアップに努め、中立性、公平性、守秘義務の周知、資格の取得を目指し、職員研修の充実を図ります。

(2) 協会としての技術力の向上

協会が目指す筑後川等の河川環境の改善、水管理並びに防災に関する最新の技術の蓄積と、ノウハウの取得を目指すと共に管理技術の研鑽に努めます。

II 協会運営活動の概要

(1) 定時総会

「令和2年度事業報告及び決算報告・監査報告」、「新年度役員(案)」、「会費の拠出(案)」についての審議、「令和3年度事業計画及び収支予算」についての報告を行います。

(2) 理事会

「令和2年度事業報告及び決算報告・監査報告」、「令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)」、「新年度役員(案)」、「会員の入退会(案)」、「会費の拠出(案)」、「令和3年度定時総会開催」についての審議を行います。

(3) 基金運営委員会

当協会が有する公益資金の適正執行に資するため設置された当委員会において、申請事業の公益性審査や、専門技術に照らし、その水準を満たしているか否か等について技術審査を行うとともに、当協会の

技術水準向上のため、必要となる技術指導及び提言を行います。

| | | |
|-----|---------------------|--------|
| 委員長 | 久留米大学 名誉教授 | 藤田 八暉 |
| 委員 | (株)ちくぎん地域経済研究所 所長 | 空閑 重信 |
| | (有)ぷらざTOBU 主宰 | 齊藤 美代子 |
| | 筑後川河川事務所 事務所長 | 松木 洋忠 |
| | 西日本新聞報道部 次長 | 山崎 健 |
| | 報道センター長・政経部長 | |
| | 熊本大学工学部 准教授 | 田中 尚人 |
| | 熊本創生 okonaware 推進機構 | 地域連携部門 |

・第1回委員会は、久留米市において開催し、以下のとおり審議を行い承認されました。

開催日 令和3年4月21日

審議事項

- 1) 令和2年度公益事業実施報告
- 2) 令和3年度公益事業実施計画
- 1) 令和3年度公募事業追加募集

出席者 藤田八暉委員長、空閑重信委員、齊藤美代子委員
松木洋忠委員、山崎健委員、田中尚人委員(Web出席)

(4) 事業評価委員会

当協会の運営の適正化、透明性の確保のために平成24年8月に設置された当委員会において、協会運営が公平性・透明性を確保しつつ適正に運営されているかについて、それぞれの分野の有識者、専門家を交え審議を行いその目的に叶っていることを確認します。

| | | | | |
|----|------|----------------|-----|-------|
| 委員 | 法律 | 弁護士事務所徳賢 | 弁護士 | 植田 正男 |
| | 金融機関 | (株)ちくぎん地域経済研究所 | | 溝上 浩文 |
| | 税理士 | かわぐち税理士事務所 | | 河口 正剛 |
| | 有識者 | 久留米大学 法学部教授 | | 児玉 昌己 |

Ⅲ. 特定資産の活用による公益事業実施計画

(1) 河川利用・管理・調査研究事業〔◎主催事業、○共催事業、●実行委員会〕(単位:千円)

| 事業名 | 実施内容 | 予算額 | 摘要 |
|------------|---|-------|----|
| 技術蓄積・研修等 | ◎筑後川市民大学 ◎筑後川水共同域の活動基本情報検討 ・その他 | | |
| 管理・調査・研究支援 | ◎住民目線でのより良い河川管理検討 ●河川人材育成システム ●河川市民団体活動公開講座 ◎河川利用アンケート調査 ・その他 | | |
| 小計 | | 6,800 | |

(2) 河川利用推進支援事業〔◎主催事業、○共催事業、●実行委員会〕(単位:千円)

| 事業名 | 実施内容 | 予算額 | 摘要 |
|------------|--|--------|----|
| 美化活動支援 | ◎清掃資材購入 ・その他 | | |
| 広報活動支援 | ◎流域市長対談等 ◎流域情報交換会 ○筑後川広域広報活動 ●住民目線による流域情報の発信 ●河川愛護活動 ・その他 | | |
| 河川利用推進支援事業 | 公募事業 (応募40件) | 16,600 | |
| 小計 | | 20,800 | |

(3) 防災・危機管理支援に関する事業〔◎主催事業、○共催事業、●実行委員会〕(単位:千円)

| 事業名 | 実施内容 | 予算額 | 摘要 |
|------------|--------------------------------------|--------|----|
| 水防災・危機管理支援 | ●花月川流域水防災活動支援 ●九州豪雨復興活動支援 ・その他 | | |
| 小計 | | 2,400 | |
| 合計 | | 30,000 | |
| 間接経費等 | 協会活動費、管理費等 | 15,000 | |
| 総計 | | 45,000 | |

令和3年度 河川利用推進支援事業(公募事業)概要

令和3年度の公募事業には40件の応募があり、第三者機関である「基金運営委員会」において承認されました。

内容は、令和2年度からの継続応募が31件、新規応募が9件です。

令和3年度 河川利用推進支援事業(公募事業)実施計画 (1/2)

(2) 河川利用推進支援事業(公募事業・NPO等活動支援) (単位:千円)

| 事業名 | 実施内容 | 予算額 | 実施機関 | 備考 |
|--|--------------------------------|----------------|-------------------------|----|
| 公 募 事 業 N P O 等 活 動 支 援 | ①第34回筑後川フェスティバル in 神崎市 | 1,500 | 筑後川フェスティバル実行委員会 | |
| | ②緑川流域会議体体験事業 | 1,000 | 緑川流域会議体体験事業実行委員会 | |
| | ③令和3年度 遠賀川流域ナイトリバー | 500 | なかま川づきあい交流会 | |
| | ④宝満川から御笠の自然と歴史を学ぶ | 100 | 御笠まちづくり協議会 | |
| | ⑤川底探検レッグー!! | 500 | 吉井町川遊びの会 | |
| | ⑥矢部川流域河川学習カレッジ | 300 | 特定非営利活動法人 がんばりよるよ星野村 | |
| | ⑦ピオトープ「春の小川」の生き物 | 400 | 特定非営利活動法人 直方川づくりの会 | |
| | ⑧遠賀川親めだかプロジェクト | 500 | 遠賀川親めだかの会 | |
| | ⑨白川の自然と流域キッズ探偵団 | 500 | 特定非営利活動法人 白川流域リバーネットワーク | |
| | ⑩菊池川自然塾 令和3年度事業 | 500 | 特定非営利活動法人 菊池川自然塾 | |
| | ⑪つるさき環境フォーラム | 150 | 乙津川水辺の楽校運営協議会 | |
| | ⑫川のぼり〜ふしぎ発見六角川〜 | 300 | 森と海を結ぶ会 | |
| | ⑬水車が回る田んぼや水辺を生かした環境教育支援 | 250 | 自然と暮らしを考える研究会 | |
| | ⑭高校生と作るラジオドラマ「治水の神」成富兵庫茂安 | 200 | 劇団とんとこパピイノとんとこ一座 | |
| | ⑮河川空間を利用したこども食堂 | 250 | 久留米こども食堂KUHON | |
| | ⑯ホテル再生プロジェクト第2期 | 400 | 朝倉わんぱく子ども応援団 | |
| | ⑰福岡と筑後川水源との子供交流活動 | 400 | 福岡海洋少年団 | |
| | ⑱菊池川流域を遊ぼう! 学ぼう! つながろう! プロジェクト | 400 | 子どもの未来を考える会 | |
| | ⑲熊本の水文化を世界に伝えるプロジェクト | 400 | ユース水フォーラム・熊本 | |
| | ⑳貝野川プール化計画 | 400 | プラエリ実行委員会 | |
| ㉑筑後川大石地区賑わいづくり | 500 | 大石かわまちづくり実行委員会 | | |

令和3年度 河川利用推進支援事業（公募事業）実施計画 （2 / 2）

（2）河川利用推進支援事業（公募事業・NPO等活動支援） （単位：千円）

| 事業名 | 実施内容 | 予算額 | 実施機関 | 備考 |
|--|-------------------------------------|--------|--------------------------|----|
| 公 募 事 業 N P O 等 活 動 支 援 | ㉒ハゼ並木の保全と紅葉期のライトアップ事業 | 150 | あ！つまらん会 | |
| | ㉓みずのうつわ！ | 250 | ちくごがわっしょい | |
| | ㉔船小屋地区賑わいづくり | 500 | 船小屋地区かわまちづくり協議会 | |
| | ㉕遠賀川と飯塚河川敷を市民の憩いの場にしよう会 地域活性イベント | 400 | 遠賀川と飯塚河川敷を市民の憩いの場にしよう会 | |
| | ㉖泊まれる九州OUTDOORフリーマーケットinのおがた | 400 | のおがたわくわく実行委員会 | |
| | ㉗第6回小竹町遠賀川ひがな花まつり2021 | 500 | 特定非営利活動法人 小竹に住みたいまちづくりの会 | |
| | ㉘河川愛護 第12回城原川ハンギーマつり | 350 | 城原川ハンギーマつり実行委員会 | |
| | ㉙水辺施設「ウォーターフロントこまなき」利活用推進事業 | 250 | 駒鳴集落を守る会 | |
| | ㉚町切水車の保存及び地域交流に関する活動 | 150 | 町切水車保存会 | |
| | ㉛中津ん石橋物語製作事業 | 300 | 特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会 | |
| | ㉜七瀬川中流域の保全整備と地域づくり | 300 | 特定非営利活動法人 アシストパルオオイト | |
| | ㉝清流七瀬川を守り、次世代へつなぐ活動 | 500 | ななせ交流会 | |
| | ㉞緑川流域新聞 | 500 | 緑川清流会 | |
| | ㉟菊池川の魅力発見事業 | 300 | 菊池川おかわの会 | |
| | ㊱28水に学ぶ ～過去から学び未来へ伝え次ぐ～ | 450 | 憩いの園大堰交流センター管理運営委員会 | |
| | ㊲災害記念碑の碑文を後世に残す事業 | 500 | 福富地区自治協議会 | |
| | ㊳白木地区復興支援「新しい白木地区地域づくり」 | 250 | 白木地区復興支援協議体 | |
| | ㊴2つのニホンウナギのサンクチュアリづくり | 400 | 福岡県立伝習館高等学校 | |
| | ㊵佐賀県の河川などに生息する淡水魚調査 | 200 | 佐賀県立鳥栖高等学校 | |
| | | 小計 | 16,100 | |
| | 追加（臨時）募集予定 | 500 | | |
| | 合計 | 16,600 | | |